平成28年度　　施策評価マネジメントシート（平成27年度の実績評価）

記入年月日
平成　28　年　4　月　7　日

施策No.	政策名	魅力と活力のある産業社会づくり	主管課	商工観光課		
503	施策名	観光の振興	関係課	農林課、都市整備課、企画課		

1．施策の目的と成果把握

目的	施策の対象	対象指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	桜川市に訪れる観光客	①1都、6県の人口	千人	見込値			42,003	42,005	42,006	42,008	42,010	41,940
				実績値	42,326	42,420	42,337	42,619	42,688	42,792	43,046	
				見込値								
				実績値								
	施策の意図	成果指標名	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
	四季を通じて観光客に訪れてもらう	①観光客入り込み客数	人	目標値			620,000	625,000	400,000	405,000	410,000	415,000
				実績値	380,500	614,800	385,500	333,600	367,100	339,600	353,700	
		②上野沼やすらぎの里キャンプ場利用者数	人	目標値			6,000	10,000	11,500	12,000	12,000	12,000
				実績値	12,607	11,002	6,716	11,573	11,808	14,761	13,880	
		③真壁町並み(ひなまつり含む)客数	人	目標値			80,000	90,000	100,000	110,000	115,000	120,000
				実績値	101,567	111,387	100,121	111,097	81,505	101,513	101,437	
		④雨引観音客数	人	目標値			420,000	430,000	200,000	205,000	210,000	215,000
				実績値	206,394	415,276	139,833	145,159	181,169	164,604	148,712	

成果指標設定の考え方	○四季を通じて観光客に訪れてもらうために、①観光客入り込み客数と、代表的な集客地②「やすらぎの里利用者数」③「真壁街並み(ひなまつり含む)客数」④「雨引観音客数」を指標とした。
成果指標の把握方法と算定式等	○対象の「1都、6県の人口」は、関東地区の人口。人口問題研究所推計から年別の人口を推計。 ・①観光客入り込み客数は、「茨城の観光レクリエーション現況」から。※22年度の614,800は、雨引観音での調査時に観光客が多かった影響による。 ・②やすらぎの里利用者数は、やすらぎの里の利用者実績数を記入。 ・③真壁街並み(ひなまつり含む)客数は、観光客動態調査(行祭事・イベント調査の真壁のひなまつり)＋街並み案内ボランティア(年間案内人数＋ひなまつり期間中案内数合計)数を記入した。

2．施策の役割分担と状況変化

役割分担	1)住民(事業所、地域、団体)の役割(住民や地域、行政と協働でやるべきこと)	2)行政の役割(市がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)
	○桜川市の歴史的文化遺産や自然環境に誇りと関心を持ち、自ら学び、地域の観光資源の活用について考える。 ○来訪者に対する出会いの機会やおもてなしの心を育む。 ○地域のイベントなどに積極的に参加する。 ○来訪者に誇れる清潔で美しいまちづくりに努める。 ○観光を地域産業振興として育成していくことに対して、関心と理解を高めるよう努める。	○市民や観光客の意向調査に努め、つくばエクスプレスや北関東自動車道を活用した観光振興施策を検討する。 ○市民に対し、桜川市の歴史的文化遺産や自然環境に誇りを持ってもらう機会を用意し、観光資源を育成していくことに対して、市民の合意形成を図る。 ○筑波山周辺地域の行政機関との連携を強化し、地域情報のPR充実を図る。
状況変化	3)施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は今後どのように変化するか？	4)この施策に対して住民、議会からどんな意見や要望が寄せられているか？
	○北関東自動車道を利用し、東北方面、1都6県から市内へ訪れる観光客増が見込める。 ○1都6県の人口は微増傾向にある。 ○団塊の世代が引退し、観光需要が増える。 ○健康づくりへのニーズが高まり、登山、ハイキング、サイクリング客が増加する傾向にある。 ○23年4月にバス路線が完全に廃止になった。 ○震災から4年が経過し真壁地区の歴史的建造物の修復がだいぶ進んできた。 ○茨城空港が開港し、路線も増便され観光客の増加が見込まれる。 ○流鏑馬競技会(4月上旬)が行われるようになった。 ○山桜や桜川のサクラが雑誌や新聞、テレビで取り上げられるようになり、観光客もだいぶ増えてきている。 ○雨引観音の本坊(事務所、休憩室、宝物展示、展望室)が整備された。雨引観音では今後概ね10年をかけて、裏山をサクラ公園として整備していく予定。 ○筑波山地域ジオパーク推進協議会が設立され、地域振興策が増えた。 ○観光協会が平成25年5月31日に一本化され、ホームページも立ち上がり、観光・物産両面で市内外へ情報を発信していける体制が整った。 ○まち・ひと・しごと事業を活用したシャトルバス運行により、誘客数の増加が見込める。	○住民の観光に対する期待度は、総合計画策定時の満足度・優先度意向調査でみると、中位より下に位置しているという状態である。現在、市内には観光産業というものはなく、生計は観光に依存していない。 ○観光協会を社団法人化して体制を整え、観光を市の産業として位置づけるようにしたいという声がある。 ○議会から観光大使の設置や桜川市のB級グルメ考案について進めてはどうかという意見がある。

3．基本事業の目的と指標

	基本事業名	対象	意図	成果指標	区分	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
①	観光PRの強化・充実	市内を訪れる観光客	桜川市を知ってもらう	観光客入り込み客数	実績値 人	614,800	385,500	333,600	367,100	339,600	353,700	
②	観光資源の充実・開発	イベント、観光資源	イベント、観光資源を充実し、多くの方に訪れてもらう	桜川市で行われているイベントへの参加者数、来場者数	実績値 人	153,000	142,500	162,000	135,500	155,500	154,000	
③	近隣自治体との連携	近隣自治体	近隣自治体と連携がとれ、観光資源のネットワーク化が図られている	連携している取組み数	実績値 事業	3	3	4	5	5	5	

4．施策のコストの実績(施策を構成する事務事業シートより積算)

	項　目	単位	26年度実績	27年度実績	28年度予算
施策のコスト	①本施策を構成する事務事業の数	件	32	32	34
	②施策事業費(一般財源以外)	千円	12,474	1,489	3,567
	③施策事業費(一般財源)	千円	44,082	41,154	39,807
	④施策事業費の計(②＋③)	千円	56,556	42,643	43,374
	⑤施策人件費(事務事業の人件費合計)	千円	18,935	15,429	15,460
	⑥　計　(④＋⑤)	千円	75,491	58,072	58,834

5．施策に関連する主要事業等

	区　分	事務事業名	摘　要
関連する事務事業	主要事業	観光資源PR事業	後期基本計画主要事業
	事務事業	観光協会運営支援事業	H27貢献度上位、H28優先度上位
	事務事業	真壁のひなまつり支援事業	H27貢献度上位、H28優先度上位
	事務事業	上野沼やすらぎの里管理運営事業	H27貢献度上位
	事務事業	りんりんロード利活用促進事業	H27貢献度上位
	事務事業	真壁高上町駐車場管理運営事業	H27優先度上位

施策番号	503	施策名	観光の振興	主管課	商工観光課

6. 施策の成果水準とその背景・要因

1)-①現状の成果水準と時系列比較（現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は？）

実績比較			
	☐ 成果がかなり向上した	☑ 成果がどちらかといえば向上した	☐ 成果がほとんど変わらない（横ばい状態）
	☐ 成果がどちらかといえば低下した	☐ 成果がかなり低下した	

背景・要因

・観光客入り込み客数は、、25年度367,100人、26年度339,600人、27年度は、353,700人であり、前年度からは、14,100人増加した。
・岩瀬地区の上野沼やすらぎの里キャンプ場利用者数は平成18年度の14,606人から毎年減少の一途をたどっている。平成23年度の6,716人と震災による半減は別として、平成24年度11,573人、平成25年度11,808人と、ここ数年は横ばいだったが、平成26年度14,761人、平成27年度13,880人が利用し、回復傾向にある。
・大和地区の雨引観音は25年度181,169人、26年度164,604人、27年度148,712人となり、調査日の天候により多少左右されることが原因で前年度より減となった。
・真壁地区街並み観光は、1,437人が真壁街並み案内ボランティアを利用した。
・真壁のひなまつりについては、約10万人が訪れた。臨時バスはTXつくば駅からは13日間で1,527人（昨年11日間1,247人から280人増）。JR水戸線岩瀬駅からは13日間で1,025人（昨年11日間1,247人から222人減）の利用があった。今回も天候にも恵まれ、バスの停留所が昨年同様、高上町駐車場となり、会場が近くなったことで利用者増に繋がっている。
・北関東自動車道を利用して県北、北関東、首都圏から訪れる観光客が増加している。

1)-②成果目標の達成状況

実績比較			
	☐ 目標値を大きく上回った	☐ 目標値のすべてが上回った	☐ 一部の成果指標で目標値を上回った
	☐ 目標値どおりの成果であった	☑ 一部の成果指標で目標値を下回った	☐ すべての成果指標で目標値を下回った

背景・要因

①観光客入り込み客数の27年度目標値410,000人に対し353,700人で56,300人下回った。
②やすらぎの里利用者数の27年度目標値は12,000人に対し、13,880人であり1,880人増となり目標水準を上回った。
③真壁町並み(ひなまつり含む)客数の27年度目標値は、115,000人に対し101,437人と13,563人下回った。
④雨引観音客数の27年度目標値は210,000人に対し148,712人で、61,288人下回った。
・桜川市全体の観光客入込客数は、観光客動態調査の対象地である雨引観音の来訪者が影響している。
・桜川市内で行われたイベントへの来場者数は154,000人であり、前年より1,500人減少した。
・近隣自治体と連携している取り組み数は5事業である。

2)他団体との比較 （近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか低いのか、その背景・要因は？）

実績比較			
	☐ 他の自治体よりかなり高い水準である	☐ 他の自治体よりどちらかといえば高い水準である	☑ 他の自治体とほぼ同水準である
	☐ 他の自治体よりどちらかといえば低い水準である	☐ 他の自治体よりかなり低い水準である	

背景・要因

・平成27年度における茨城県の入込客数（延べ人数）は5,704万人（前年比12.4%増）となった。9ヶ所の道の駅や、17のイベントが調査対象になったことも増加の要因となっている。
・近隣市町村の入込客数状況

	26年度（人）	27年度（人）	増減（人）	増減率（%）	
桜 川 市	339,600	353,700	14,100	4.2	雨引山、真壁のひなまつり、桜まつり
筑 西 市	369,400	371,000	1,600	0.4	下館祇園祭、小栗判官まつり、どすこいペアー
結 城 市	112,200	139,200	27,000	4.1	祭りゆうき、結い市
下 妻 市	1,033,500	1,487,600	454,100	43.9	砂沼サンビーチ、花火大会、（道の駅が新たに調査対象となった）
つくば市	3,419,400	3,320,400	▲99,000	▲2.9	筑波山、梅まつり
石 岡 市	1,331,400	1,350,500	19,100	1.4	フラワーパーク、果樹園、石岡祇園祭

・比較の基準はないが、入込客数の増減率により、他の自治体とほぼ同水準であるとした。

3)住民の期待水準との比較 （住民の期待よりも高い水準なのか 同程度なのか、低いのか）、その他の特徴は？

実績比較			
	☐ 市民の期待よりかなり高い水準である	☐ 市民の期待よりどちらかといえば高い水準である	☑ 市民の期待とほぼ同水準である
	☐ 市民の期待よりどちらかといえば低い水準である	☐ 市民の期待よりかなり低い水準である	

背景・特徴

・住民の観光に対する期待度は、総合計画策定時の満足度・優先度意向調査でみると、平均よりどちらも低く、要注意項目に位置しているという状態である。現在、市内には観光産業というものはなく、生計は観光に依存していない。

7. 施策の成果実績に対しての、これまでの主な取り組み（事務事業）の総括

前年度の取組状況と課題

・27年度において重点的に取り組んだ対象地区は、市外、県外（1都5県福島）で、「観光情報を発信する」ことをに重点意図として取り組んだ。
貢献度評価の結果、貢献した事務事業は、「観光協会運営支援事業」「上野沼やすらぎの里管理運営事業」「真壁のひなまつり支援事業」「観光パンレフレット作成事業」が施策の成果向上に貢献した事業といえる。
・「観光協会運営支援事業」は、市補助金6,000,000円を受け、岩瀬地区ではさくら祭り、納涼大会、岩瀬駅前祇園祭、ヤマザクラ見学者の受け入れ、大和地区では大和流鏑馬競技大会、真壁地区では真壁のひなまつり、真壁祇園祭、かったて祭りなどの支援を行いました。また平成26年7月1日にオープンしたホームページを活用し、観光PRや情報発信を進め、観光、物産両面の強化を図るとともに会員増強に力を入れました。
・「上野沼やすらぎの里管理運営事業」は、年間13,880人のお客様がケビン、オートキャンプ場、バーベキューサイトを利用し、余暇を楽しんだ。
・「真壁のひなまつり支援事業」は、真壁のひなまつり実行委員会に対しての支援として、茨城県観光物産課、茨城県広報公聴課、茨城県観光物産協会、首都圏新都市鉄道（TX）、関鉄バスと連携し、臨時バスの運行、ポスター、チラシ、ホームページによる広域的なPR活動、メディアへの露出を実施した。また会場案内、駐車場整理等で商工観光課のほか市職員有志の協力を得た。
・「観光パンレフレット作成事業」は、2種類のパンフレットを追加作成し、既存のパンフレットも含め市内の観光拠点、施設へ設置しました。また近隣自治体と連携し、キャンペーン等でも配布しました。

【その他の事務事業】では、県観光物産協会参画事業は、観光キャンペーンにおいてパンフレットを配布し、ホームページ『観光いばらき』において市内観光スポットの情報を発信した。
漫遊いばらき観光キャンペーン推進協議会参画事業を推進した。
県自然歩道利用促進協議会参画事業は、平成27年10月25日（日）に第33回IBARAKIウォークフェスティバルを実施し207名が参加した。
筑波山地域ジオパーク推進協議会参画事業は、平成26年8月に認定が見送となり、指摘事項の修正と実施計画に基づく事業を行った。主な内容としては基本構想の構築、ジオストーリー及びジオサイトの検討、各市巡検、各市ジオツアー等を実施した。

8. 総合計画後期基本計画(H24～)の振り返り

区分		これまでの取組成果	今後の課題（未着手の事業、未達成の理由など）	今後の方針
施策全体		・観光協会事業を精査し、効率の良い協会運営の促進。 ・観光パンフレットを作成し、観光施設等に設置した。 ・ホームページを効果的に活用した。 ・国指定名勝『桜川』や国指定天然記念物『桜川のサクラ』、高峯の山桜、真壁の町並み及び多くの観光客が訪れる雨引観音などの観光資源の連携を図ってきた。 ・真壁のひなまつりにおける交通手段を確保した。 ・上野沼やすらぎの里キャンプ場の誘客促進した。 ・近隣自治体との連携：筑波ブロック広域観光連絡協議会、茨城県自然歩道利用促進協議会、笠間・吾国・愛宕県立自然公園連絡協議会、筑波山周辺ジオパーク推進協議会	・北関東道やつくばエクスプレス、茨城空港等新たな交通インフラを利用した観光客の増加に寄与するため、既存周辺施設を利用した観光PRを検討していく必要がある。 ・新たな観光資源に関わる市民団体との連携・支援の検討を行っていく必要がある。 ・観光資源への交通手段の確保についての検討が必要である。 ・観光客数は増加傾向にあるものの、地元への経済効果についてはまだ不十分であるため、今後は観光振興の取り組みによって、経済効果をもたらす方策の検討が重要である。	・水郷筑波国定公園・笠間県立自然公園の指定を受けている豊かな自然環境、国の天然記念物・名勝指定の「桜川のサクラ」や里山のヤマザクラ。約100 軒の登録文化財を有する真壁の町並み、多くの観光客が訪れる雨引山等の歴史的・文化的遺産を活かし、観光が当市へ経済効果をもたらすよう育成・強化を図る。 ・既存の観光拠点の整備拡充を図るとともに、イベントの見直しや再構築、観光宣伝の強化により、人と人とのふれあいを大切にした滞在型の観光地の形成を図る。 ・つくばりんりんロードや北関東自動車道の活用、さらには筑波山周辺地域自治体との連携により広域観光の開発に取り組んでいく。 ・地域振興策の一つとしてジオパーク認定を目指す。
基本事業	①観光PRの強化・充実	・市のホームページや観光パンフレットによる情報発信の強化とともに、マスメディアや観光キャンペーンを積極的に活用し、観光PRを充実させた。 ・観光協会のホームページを活用し物産等のPR強化に取り組んだ。	・桜川のサクラ（磯部桜川公園、磯部稲村神社、高峯のヤマザクラ、雨引観音、つくし湖）等の市内桜スポットへの受入体制整備やPR方法、桜まつりの運営方策についての検討の必要がある。	市と観光協会のホームページやフェイスブック、観光パンフレットによる情報発信をさらに進め、観光・物産両面を強化していくとともに、マスメディアや観光キャンペーンを積極的に活用し、観光PRの充実に努める。
基本事業	②観光資源の充実・開発	・観光資源の整備と相互の連携を図り、新たなイベントや観光資源の充実に努めた。 ・イベントの主催団体や市民団体等を積極的に支援し、組織体制を強化した。 ・上野沼やすらぎの里キャンプ場の誘客を推進した。	・市の玄関口である岩瀬駅前への観光案内所の設置やレンタサイクル事業の開始。	既存の観光資源の受入体制の整備と相互の連携をさらに進め、新たなイベントの発掘や観光資源の充実に努める。 また、実際に地域活性化事業に取り組んでいるイベント主催団体、市民団体との連携を密にし、積極的に支援していく。また茨城県と連携しレンタサイクル事業を推進する。
基本事業	③近隣自治体との連携	・近隣自治体が加入している協議会等を活用し、イベント会場や観光案内所での合同PR活動を推進し、観光資源のネットワーク化を展開した。	・筑波山地域ジオパーク推進協議会で計画している事業（講演会、パネル展、パンフレット配付、ホームページによるジオサイト紹介等）を推進していく。	近隣自治体が加入している協議会を活用し、イベント会場や観光案内所での合同PR活動を推進し、市のイメージアップへと繋げる。また観光資源のネットワーク化を進め、通過型から滞在型に移行できるよう努めていく。